

“うばすて山”はいますぐ廃止を

「75歳になったら医者にかかるな」というのが「まるで、早よ死ぬ保険」や——いま、全国で「後期高齢者医療制度」への怒りがわきおこっています。いったい政府は、高齢者のいのちと健康をなんだと思っっているのでしょうか。

収入ゼロでも ムリヤリ保険料徴収

75歳になれば、いやでもこの制度に入れられます。収入ゼロでも、「扶養家族」でこれまで支払う必要のなかった人でも、すべての人が保険料を取りたてられるのです。

年金から 有無をいわず「天引き」

保険料は、取りっぱぐれがないように年金から「天引き」。国民への給付はいい加減なのに、取りたてだけは、有無をいわず。政府の頭の中にあるのは、取りたてる側の都合だけです。

保険料値上げは 天井知らず

保険料は2年ごとに見直され、75歳以上の医療費や人口がふえるのにしたがって、自動的に引き上がるしくみです。団塊の世代が75歳になったとき、保険料は2倍以上になります。

滞納したら 保険証とりあげ

年金が少なく「天引き」できない人が保険料を滞納すれば、「保険証のとりあげ」に。これまで75歳以上の高齢者からの「とりあげ」は禁止されていたのに、容赦なしです。命綱までうばいとる血も涙もない制度です。

“導入戦犯”は自民・公明

誰がこんなひどい制度をきめたのか？ 2年前、「郵政解散」で大勝した自民・公明が、ドサクサ紛れに強行採決。「公明党の主張を随所に反映」（「公明新聞」06年6月15日付）とおおいばりでした。



そのうえ

受けられる医療も
差別されます

詳しくは
2面をご覧ください

75歳以上を ねらいうち

こんな 差別医療制度は 許せません

75歳をこえたというだけで、
病気の予防から、病院の外来、入院、終末期まで、
あらゆる場面でひどい差別がおこなわれます。



日本共産党

病気予防

健康診断は、行政の義務ではなくなります

「もう生活改善はむりだから、あとは残存能力を維持して」と厚
労相。75歳をこえたら健康づくりは不要、といわんばかりです。

外来

**必要な検査や
治療がうけにくくなります**

糖尿病や高血圧で診療所にかよっ
ている人は、検査の回数をへらされた
り、手厚い治療がうけにくくなりま
す。保険でかかれるのはここまで、
と、治療費に上限をつける「定額制」
が導入されたからです。

「毎月の血液検査が必要
な患者に、十分検査できな
くなるおそれがある」
(青森のA医師)

「糖尿病と高血圧でいくつもの
検査が必要で、医師から定額の
6000円におさまらないとい
われた」(東京のBさん)

入院

**病院からの追い出しが
いっそうひどくなります**

「『退院支援計画』をつくるので、早く退院してください」とせま
られます。政府が、「後期高齢者」の病院追い出しをすすめる新し
い診療報酬を導入したからです。

「終末期」

延命治療はムダ、とぎりすこられます

「終末期」と診断されると、本人や家族に延命治療はひかえめ
になどの誓約書を出すことをすすめられます。「終末期医療」
にかかる費用を削減し、「在宅死」をふやそうという政府の方針に
よるものです。

“いずれ死を迎えるから、お金をかけるのはムダ”

なぜ、こんなひどい制度をつくるのか——日本共産党の追及に政府は、75歳以上
の人は「複数の病気にかかり、治療に時間がかかる」「認知症の人が多い」「いず
れ死を迎える」という「特性」をもっているから、とこたえました。要するに「やが
て死ぬのだから、お金をかけるのはもったいない」というのです。

**「医療費がふえて大変」といいますが、足りないのはお金ではありません。
国民のいのちと健康をまもろうという「福祉の心」です。**

**日本共産党は世界に例のない残酷な制度をやめさせるため、みなさん
と力をあわせてがんばります。**

葬祭費 まで削減

「75歳以上で亡く
なると葬祭費がへる
地域も」——亡くなっ
たあとまで差別する
のがこの制度です。

血も
涙もない

自民・公明
のホンネ